山口県病院協会会報

2015 新年号 No.46

●発行日　平成27年１月１日
●発行所　一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814　山口市吉敷下東三丁目1番1号
●電話　083-923-3682
●FAX　083-923-3683
●発行人　木下　毅
●印刷所　大村印刷株式会社
●メールアドレス　info@yha.or.jp
●ホームページ　http：//www.yha.or.jp

年頭のご挨拶

副会長　三浦　修

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、年の初めにあたり、世の中の平穏と人々の健康とを祈り、かつ私たち医療人を取り巻く環境が少しでも改善され、医療・介護・福祉に従事する人達が、それぞれの仕事に誇りと情熱を持ち続けることができるように願ったのではないでしょうか。

昨年は、県内の各病院も４月の診療報酬改定に伴い、病院の機能強化・再編への対応で慌ただしく過ぎた年であったように思います。急性期病院は、その機能をより一層明確化せざるを得ず、重症度、医療・看護必要度の高い患者の受け入れ、救急患者の受け入れに力を入れ、在宅復帰率のアップに頭を悩ますことになりました。急性期後の患者や在宅患者の増悪例の受け入れ病床として位置付けられた地域包括ケア病棟への転換は、各病院の経営戦略上重要な選択肢となっています。

昨年暮れ、安倍首相は、「デフレ脱却のチャンスを手放すわけにはいかない」として、今年10月から予定されていた消費税率10%の引き上げを１年半先送りし、衆議院解散と年末総選挙へと突き進みました。2017年４月には、消費税は確実に10%に増税されます。医療の消費税問題に関し、軽減税率等による課税取引転換等の税制抜本的解決がなされなければ、医療機関の経営悪化は必至であり、地域医療の崩壊につながります。

政府広報オンラインによると、「消費税率引き上げによる増収分は、全て社会保障の充実･安定化の財源となる」とあります。約20%が子ども・子育て支援、医療・介護、年金の各分野の充実に、そして残りの約80%は、社会保障の安定化のための財源になると謳っています。果たして消費税増税で、真に社会保障は充実するのでしょうか。政府の試算では、2014年４月に消費税が５％から８％に引き上げられたことにより、約５兆円の税収増加が見込めましたが、実際に子育て支援や医療・介護などの支援に使われるのは約5,000億円で、残りの90%は基礎年金の国庫負担割合引き上げや赤字の解消に充てられるということです。

現在、少子高齢化はますます加速度化し、2013年には社会保障給付費は110.6兆円に達し、団塊の世代が75歳に達する2025年には144.8兆円に達すると言われています。年間３～４兆円というペースで急増している社会保障費は、もはや消費税の増税で賄えるものではなく、抜本的な改革が必要な危機的状況と言わざるを得ません。

団塊の世代が後期高齢者の年代に達する「2025年モデル」の実現に向け、国は病院の平均在院日数を短縮させ、病床数を大きく絞りこもうとしています。今こそ、自分たちの病院の立ち位置をしっかりと確認し、歩むべき道を勇気をもって決断すべきでしょう。

CONTENTS（目次）

山口県病院協会長挨拶……１ページ
山口県知事挨拶……２ページ
協会役員コーナー……３ページ
病院スタッフコーナー……４～６ページ
研修会報告……７～８ページ
諸会議報告……９ページ
事務長部会コーナー……９ページ
お知らせコーナー……10ページ

年頭所感　～「活力みなぎる山口県」の実現に向けて～

山口県知事
村岡　嗣政

明けましておめでとうございます。

すがすがしい新春を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、今年が良い年となりますことを心からお祈りいたします。

昨年、県民の皆様方の御支持をいただき、知事に就任してから初めての年明けを迎えました。

私は、今年一年を、県政運営の基本目標として掲げた「活力みなぎる山口県」を実現する上で極めて重要な年と考えており、関係団体をはじめ、市町や県民の皆様のお力を結集して様々な課題に果敢に挑戦し、ふるさと山口県の発展に全力を尽くしたいと決意を新たにしています。

将来にわたって元気な山口県を創っていくためには、県民の皆様の意見を十分お聴きしながら、本県の現状と課題を的確に把握し、中長期的な視点に立って県政の推進方策を明確に定め、新たな県づくりの道筋をつけていくことが必要です。

このため、昨年から「元気創出！どこでもトーク」と題した意見交換会などを通じて、様々な分野で活躍されている方々から幅広い意見をしっかりとお聴きし、今後取り組んでいく政策を戦略的・計画的に推進していく指針となる「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」の策定を進めているところです。

プランの中では、県民誰もが不安なく暮らせる生活は、県民生活の基本であるとの認識の下、「安心・安全確保戦略」を政策の柱である「未来開拓戦略」のひとつに掲げ、生涯を通じて健康で安心して暮らすことができるよう、医師や看護師等の確保・育成、医療機能の分化・連携、がん対策、救急医療体制の整備、地域包括ケアシステムの構築、健康づくりなどを重点的に推進していくこととしています。

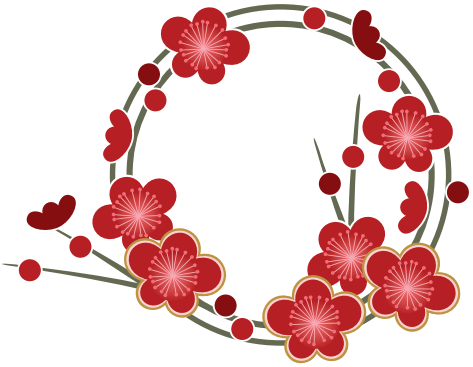
これらの取組を実施していくに当たりましては、病院協会の皆様方の一層の御支援を賜りますようお願いします。

また、今年は、７月から８月にかけて、山口市阿知須きらら浜を主会場に世界の青少年３万人が交流する「世界スカウトジャンボリー」が開催され、その２か月後の10月には、全国から選手･役員１万人をお迎えして、「おいでませ！元気な笑顔　ゆめ舞台」をテーマに、県内全市町を会場に「ねんりんピックおいでませ！山口2015」を開催します。

両イベントが、参加される皆様の心に残る素晴らしいものとなるよう、御協力のほどよろしくお願いします。

今年の干支は「乙未（きのと・ひつじ）」です。「乙」にはいかなる抵抗があっても、紆余曲折を経てもそれを進めていかなければならない、また、「未」は、光を遮る枝を払いのけ明るくしなければならないという意味があります。

私は、人口減少問題など、目の前に立ちはだかる困難な課題にも積極果敢に挑戦し、「活力みなぎる山口県」の実現に向け、大きく飛躍する年にしていきたいと考えていますので、県民の皆様の御支援と御協力をよろしくお願いします。



協会役員コーナー

地域のために

社会医療法人同仁会
周南記念病院
理事長 竹重 元寛

新年明けましておめでとうございます。

１年という時間の経過を早く感じるようになったのは、年のせいでしょうか？　今年で65歳の定年を迎えますが、何とか自分の臨床専門領域は続けたいと思っています。

さて、山口県病院協会の理事に就任して７年となりました。協会役員として十分なお手伝いが出来てなく申し分けありませんが、経営の役に立つ会合と思って可能な限り参加したいと思っています。公的病院も民間病院も十分な地域での役割を果たして経営、運営していくための病院協会になることを願っています。

当院は一年の努力目標をスローガンとして提示しています。昨年度は“地域のために”というスローガンを掲げました。日本の持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律に基づく措置として、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築することを通じ、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するため、医療法、介護保険等の関係法律について所要の整備などを国、都道府県が行う関係法律が整備されました。おのずと地域のために職員一丸となって、頑張っていかなければなりません。今年の当院のスローガンは、私の所属する奉仕団体の行動目標の受け売りですが、“職場に輝きを”に致しました。私が１本のろうそくに火をともし、あなたが一本のろうそくに火をともします。そして全職員がろうそくに灯をともします。私たちが一つになれば、一人ひとりですることより、ずっと大きなことができるのです。

一燈照隅 万燈照国（いっとうしょうぐう ばんとうしょうこう）

一燈照隅 万燈照国とは一つの灯りは隅しか照らせないが、万の灯りは国全体を照らすことができる。転じて、一人一人が自分の役割を懸命に果たすことが、組織全体にとって最も貴重であるという意味だそうです。

これからも山口県病院協会が中心になって、山口県全体の医療および介護が充実することを願っています。

新山陽小野田市民病院の開設について

山陽小野田市民病院
病院長 瀧原 博史

新年あけましておめでとうございます。

昭和22年に小野田市近郊の炭鉱の福利施設の一環として、産業復興公団・炭鉱福利協会によって病院の建設が開始され、昭和24年に小野田市によって病院建設事業が継承されました。昭和25年に小野田市立病院として８診療科（内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、皮膚科、整形外科、放射線科）、50床の病床をもって開設されました。その後215床の総合病院となり、平成17年、小野田市と厚狭郡山陽町が対等合併し、山口県山陽小野田市が誕生しました。それに伴い平成20年、小野田市立病院は山陽市民病院を統合し、山陽小野田市民病院と名称変更しました。

その後平成26年10月１日、新病院が開設されました。新病院の場所については、市議会などを中心に議論がありましたが、現地点が好立地のため、現在の敷地内に建設されることになりました。旧病院は取り崩されて、駐車場になります。グランドオープンは、平成27年４月１日の予定です。

新病院の理念、方針としては、まず基本理念を、誠実、公正、連携とし、基本方針としては、地域に信頼される良質な医療と心穏やかに過ごせる療養環境を提供することとしました。新病院の建設方針もそれに沿ったものとし、診療機能の整備としては、地域に開かれた公立病院として、市内３公的病院の役割を尊重し、山口大学病院との連携を密にすることとしました。

病院は、周囲を大病院や特色ある病院に囲まれ、地理的環境は厳しく、当院の存在意義、また、自治体病院でなければできないことは何か等、難問はありますが、山口大学病院、地域医師会の先生方のご協力を得て、真の意味で地域市民に選ばれる、小さくともきらりと光る病院にしたいと思っております。

病院スタッフコーナー

地域に密着した病院を目指して

医療法人緑山会
鹿野博愛病院
副院長 松森 幸夫

あけましておめでとうございます。

当院は昭和63年に開設し、現在110床の医療療養型及び介護療養型の病院です。

中国自動車道鹿野ICを降りてすぐの中山間地に位置し、清流錦川の恵みを受けた田畑、山林に囲まれています。Google street viewでは、道路をまたいだ先の畑にソバの花が咲いており、病院玄関わきで春には見事な花を咲かせる大きなソメイヨシノが患者さんを出迎えます。自然も人情も豊かなこの土地で働けることを毎日感謝しています。

ただ、山口県の市町村に共通することですが、人口減少、高齢化の流れはとどまることを知りません。周南市鹿野地区の人口が平成26年９月30日現在3507人、65歳以上の高齢者が1560人で44.5％を占めます。私が当院で働き始めた平成８年の人口は約5000人でした。20床あった一般病棟もなくなりました。現在は主に急性期医療の後方支援、慢性期医療、在宅療養支援（訪問診察・看護）、予防医学（医師が学校に出向いて生活習慣病予防の講演を行ったり、産業医として勤労者の健康を管理したり、一般の方向けに疾患・介護・リハビリなどさまざまな学習会を開いたりして、少しでも鹿野地区の皆さんが健康長寿でいられる時間が長くなるよう努めています）等を行っています。

これまでリハビリ専門学校実習生を数多く迎え、平成24年度からは毎年研修医が地域医療を学びに来るようになりました。若い人たちのアイディアや情熱を取り込み日々の診療に生かし、さらに元気な鹿野を作り出せるよう今年も頑張ります。よろしくお願いいたします。

個別性のある看護を目指して

特定医療法人茜会
昭和病院　副主任
看護師 筒井 仁美

新年明けましておめでとうございます。

当院は、在宅復帰に向けた高齢者医療・障害者医療に重点を置いた398床の病院です。患者さんの様々な容態に対応できるよう、一般病棟をはじめ、回復期リハビリ病棟・介護療養病棟・障害者病棟・特殊疾患病棟・医療療養病棟があります。また、退院後の患者さんの状態に応じ、必要な医療・介護サービスが受けられるよう、グループ内には診療所･デイサービス･グループホーム等の施設があります。

当院では、退院後の継続した医療の一環として、糖尿病教室やフットケア外来を行っています。糖尿病療養指導士が中心となり、一人の患者さんに対し多職種が関わり、生活指導を行っています。多職種が関わることによって、より専門性の高い指導ができ、患者さんの状態や生活状況に応じた個別指導を行っています。また、糖尿病足病変予防として、フットケアの重要性を実感しています。高齢の方が多いため、わかりやすく、患者さん自身が日々の生活にフットケアを取り入れやすいよう検討し、指導するように心がけています。在宅や施設等でその人らしく生活ができるためには、患者さん一人一人との関わりを大切にし、個別性を重視した看護が大切であると感じています。

病院の理念にもあるように、外来から入院、在宅が一体となり、地域医療に貢献し、患者さんとの関わりを大切にし、個別性のある看護の提供ができるよう日々努力していきたいと思います。

病院スタッフコーナー

新年を迎えて、初心に帰って

医療法人和同会
宇部西リハビリテーション病院
リハビリテーション部部長
医師　柳原 博之

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当院は1992年、医療法人和同会「常盤台病院」として山口県宇部市に開院、2012年に新築移転し、「宇部西リハビリテーション病院」と改称しました。新病院となって２年半が経過し、地域に根差す治療を志して来た私達は、まだスタート気分が抜けきれていないと感じる事もありますが、「生活に安全を！日常に笑顔を！」をスローガンに回復期病棟を築き上げ、地域につなげるリハビリを心掛けられるようになっています。具体策として「今、その人に一番必要な動作や楽しみを見つけ、活動や社会参加を促せる」ようリハコーディネーターを病棟配属し、入院直後から退院後の生活が安定するまで関わるようにしています。しかし思うように行かない事も多く、患者・家族の価値観や生活の質、抱える問題の多様化を前に、安全を重視するあまり、個性を消してしまっている事があるのだと気付かされます。厚労省ＨＰにある地域包括ケアシステムのイメージ図には花は描かれていません。

私が回復期・生活期の治療に転身したのは、急性期に携わる医師の治療への思いを、次につないで行きたかったからです。今年はその初心に帰って、スタッフ一丸となって地域包括ケアシステムの図に花を咲かせたいと思っています。家族を含め、急性期と回復期で関わった人々の思いを生活期につなぐマネージメントを完成させ、住まいと地域に花を咲かせる、今の私達の夢です。

診療の再開に感謝

医療法人岩国みなみ病院
医療事務
河村 和彦

新年あけましておめでとうございます。

当院は、岩国市にあります60床の急性期一般病院です。ご存知の方もあるかと思いますが、昨年８月６日早朝に記録的な大雨による増水で、病院１階部分が約50cm以上水没してしまいました。特に一般撮影機器をはじめとするレントゲン機器、内視鏡検査機器などの検査機器、導入したばかりのレセコン、そしてカルテ、浄化槽、厨房に至るまでの多くの病院運営に必要なものが使用できない状況となりました。

そのような状況の中、一番に病院協会をはじめ医師会関係のスタッフの方々、その他多くの方の人的援助、また、病院協会会員の方々はじめ多くの医療関係者の方々からの心温まる励ましの言葉や義援金によるご支援により、８月11日には外来を再開することが出来ました。

しかしながら努力及ばず、10月から病棟休床となり大変ご迷惑をおかけして申し訳ない気持ちでいっぱいです。これからも引き続き地域医療に取り組んで参る所存ですのでよろしくお願いいたします。

ご支援いただいた多くの方々には、本当に心から感謝申し上げます。

病院スタッフコーナー

いろいろな部署での看護師の仕事を経験して

医療法人社団曙会
佐々木外科病院
地域医療連携室室長
看護師　後藤　嘉子

あけましておめでとうございます。

今年で看護師になって35年目になります。私の看護の基礎となるものは、「ナイチンゲールの覚書」ではなく、看護学校時代の恩師が話された「患者様は先生である。患者様が私たちにいろんなことを教えてくれる。」という言葉です。私は、ご縁を頂いた患者様のお蔭で、ここまで成長させて頂きました。

また、今年で医療法人社団曙会佐々木外科病院在職20年になります。子育ての一番大変な時期に入職し、今では当たり前になっていますが、当時では珍しく勤務時間を短縮してもらうなど、子育てのためには恵まれた環境の中で勤務することができました。この20年の間に、病棟から在宅へ異動し、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所の立ち上げに携わり、現在、地域医療連携室で勤務しています。佐々木外科病院のプチ自慢は、「一次救急告示病院として、二次・三次救急告示病院と補完しながら救急患者を常に受け入れる体制であること。54床と小規模ながら山口市の私立病院の中で数少ない手術的治療が可能な病院であること。平成元年山口県内で２番目にMRIを導入したこと。地域医療を実践するため平成15年山口市内の病院で初めて、開放型病院の認可を受けたこと。」です。地域医療連携室は、“紹介患者様は断らない”をモットーにし、前方支援（病病・病診連携）・後方支援（医療総合相談）を、私とMSW２名の体制で、高度急性期病院、慢性期・療養型病院、地域の施設やクリニックと連携を行いながら、地域の皆様と地域医療に貢献できればと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医療事務として地元で働く喜び

医療法人社団慈生会
萩慈生病院
医事　金﨑　淳

新年明けましておめでとうございます。

当院は萩地区で初めての高齢者専門病院として昭和56年に開設され、病床数184床の医療・介護療養型病院です。

昨年は私の人生において、大きな転機を迎えることになりました。まずは７年間の大阪での生活から、昨年１月に実家のある山口県に戻って来たことです。改めて、山口弁の方言には温かみを感じました。そして11月には無事に入籍も果たし、自分を取り巻く環境は大きく変わりました。

医療事務の仕事は一般事務とは違います。患者様の対応からカルテの管理・準備、レセプトの作成、医療費の請求などの業務を行う仕事で、受付業務・病棟クラーク業務・レセプト業務など多岐にわたります。その中で、介護保険での医療費請求業務は今回が初めてのことで、一からのスタートになりました。

現在は入院業務を主に担当しているので、定期的に病棟に足を運び、カルテチェック等を行っています。担当している病棟間を往復していると、１日を病棟で過ごす時間の方が多いこともあります。この地道な作業により、その月の診療内容を請求する為、多職種のスタッフにも協力してもらいながら取り組んでいます。

外来受付に立つこともありますが、その時は迅速に医療費計算や会計をして、「お大事に」と笑顔でお送りするよう努めています。患者様に気持ち良く帰っていただけるように心がけています。

受付以外では直接、患者様やご家族様と接する機会は少ないですが、当院を支える裏方として、医事業務の質の向上を目指していきたいと思います。

研修会報告

平成26年度　中堅看護師研修会

平成26年10月１日（水）、ホテルニュータナカにおいて中堅看護師研修会が開催され、160名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下の通り

テーマ　「ポジティブ・マネジメントで組織を活性化する」
講　師　山口赤十字病院
　　看護部長　大林　由美子　氏

テーマ　『治す』医療から『支える』医療へ
講　師　山口県立大学　理事長
　　山口県病院協会　顧問
　　江里　健輔　氏

大林由美子　氏

江里健輔　氏

大林講師は、医療を取り巻く環境の変化が著しい中で、専門職として、中堅看護師には、「ポジティブ・マネジメント」によって組織を活性化することが求められていることを、実践事例の紹介を交えながら講演された。
江里講師は、急速に進む超高齢化や人口減少により、「治す」医療から「支える」医療へと変わっていく日本の医療における看護のあり方や求められる病院、医療体制、医療人について講演された。
参加者は講師の話に熱心に耳を傾けていた。

研修会風景

山口赤十字病院
看護師
田中　聡子

中堅看護師研修会に参加して

看護師として働き始めて７年目になった。新人看護師の指導を行うこともあれば、病棟業務の中心的役割も担うようになってきた。新人でもなく、管理職でもない難しい立場である中堅看護師として、自身の役割について考える時間が多くなったと感じていた。そんな時にこの研修会に参加することができ、求められている役割を再認識するきっかけとなった。

ポジティブ・マネジメントの考え方の中には、ひとりからでも始めることのできる思考の訓練もあり、毎日の心がけとして覚えておくと習慣にすることができるのではないか。ポジティブな考え方が身につくと、組織風土まで変わっていくきっかけとなりうる。

「ポジティブで丁寧な風土は、人が組織に参画し、貢献する前向きなエネルギーに拍車をかける」ということを大林先生の講義から学んだ。そのような組織風土になることは、すなわち働きやすく、やりがいのある職場環境を増やしていくことにつながると感じた。

江里先生による「『治す』医療から『支える』医療へ」では、今後の日本の人口動態や、求められる医療・病院・看護師像について学んだ。変わっていく需要に私達は答えていく必要があり、自身に足りない技術は努力して身に付ける必要がある。現在は毎日の業務に追われてしまっているが、自分の未来のビジョンを５年後、10年後と長期的に持ったうえで、看護師としてのキャリアアップをしていきたい。

研修会報告

平成26年度　病院看護師長研修会

平成26年10月29日（水）、ホテルニュータナカにおいて、病院看護師長研修会（テルモ株式会社共催）が開催され、153名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

テーマ　「看護師長の判断力」
講　師　岩国市医療センター医師会病院
　　看護部長　浴森　公子　氏

テーマ　「病院経営における従業員満足と安全対策～曝露対策～」
講　師　金沢赤十字病院
　　副院長　西村　元一　氏

浴森講師は、今までに体験してきた出来事や経験を踏まえて、「看護師長の役割、業務内容」「マネジメントのスタイル」「概念化能力」「管理者に必要なスキル」等、看護師長として判断するときに大切なことを事例をあげながら講演された。

西村講師は、金沢赤十字病院に赴任してから、やってきたこと、やっていることとして「サービスの向上」「チーム医療」「地域連携」について、具体的事例を紹介しながら講演された。

参加者は身近な問題の講演に真剣な眼差しで受講していた。

浴森公子　氏

西村元一　氏

研修会風景

医療法人医誠会
都志見病院
看護師長
原田　幸江

病院看護師長研修会に参加して

平成26年10月29日に病院看護師長研修会において浴森公子先生、西村元一先生による講義を受けさせて頂いた。師長としての経験の浅い私にとって、とても興味深い講義だった。

師長という立場に立つと患者に対しての判断はもとより、部署内のこと部署間のことなど様々な判断場面があり、その多くは即座に判断を求められる。判断するためには判断材料となる情報がないとできない。正しい情報を多く持ち、それぞれの場面で必要な情報を使えるようにしておきたい。また部署のリーダーとして「基軸」を持つことの重要性を学んだ。自分の考えをしっかりと持つことによりスタッフが安心してケアに取り組め、より良い患者サービスにつながっていくと感じた。

管理者は一方向のみで物事を見てはいけない。当院が地域においてどのような立場にあるのかを考えた患者対応が必要となる。「虫の目、鳥の目、魚の目」を持つことが必要と講義で言われたが、様々な角度から物事を見られるようにしていきたい。スタッフ・他部門との双方向のコミュニケーションの重要性、多職種で協働・連携を図り、医療者と患者家族とのギャップを埋めていくことにより、より良いサービスの提供につながっていくことを学んだ。

今回の研修をもとに自分のマネジメントスタイルを把握したうえで、スタッフのモチベーションの向上に向け、そして患者サービスにおいて自施設でしかできないものを見つけ出していけるよう取り組んでいきたい。

諸会議報告

平成26年度　第４回理事会

日　　時　平成26年11月14日（金）15：30～17：00
開催場所　新山口ターミナルホテル
【承認事項】
1．平成26年度山口県病院協会収支予算執行状況について
2．平成26年度病院看護補助者・介護職員研修会について
3．第11回山口市在宅緩和ケア市民公開講座後援依頼について
4．賛助会員加入について
5．地域包括ケアフォーラム事業後援依頼について
【協議事項】
1．四県病院協会連絡協議会に提出する議題等について
2．冬季医療経営講習会の開催について
3．事務長部会研修会について
4．診療報酬改定による影響度調査について
【報告事項】
1．県行政委員の推薦について
・山口県医療審議会医療法人部会委員
・山口県医療審議会保健医療計画部会委員
会　長　　木下　毅（再任）
・山口県在宅医療推進協議会委員
理　事　　神徳　眞也（新任）
・山口県訪問看護推進協議会
理　事　　玉木　英樹（再任）
・山口県がん対策協議会委員
理　事　　名西　史夫（新任）
2．山口県選奨　保健衛生・環境功労賞受賞について
3．第10回医療関係団体新年互礼会について
4．県各種委員会等の報告
木下会長
・山口県医療審議会医療法人部会（10月29日）
内山理事（欠席）
・健康やまぐち21推進協議会（10月23日）
天津事務局長
・女性医師実態調査検討会（10月28日）

平成26年度　第１回総務委員会

日　　時　平成26年12月19日（金）14：00～15：00
開催場所　新山口ターミナルホテル
【協議事項】
1．診療報酬改定影響度調査票について
2．平成27年度各種表彰受賞候補者の推薦について

平成26年度　第３回情報管理委員会

日　　時　平成26年12月19日（金）15：00～17：00
開催場所　新山口ターミナルホテル
【協議事項】
1．新年号の発行について
2．４月号の発行準備について

事務長部会コーナー

平成26年度　第３回事務長部会常任幹事会

日　　時　平成26年10月８日（水）15：00～16：50
開催場所　新山口ターミナルホテル
【協議事項】
1．在宅医療提供体制事業について
2．平成26年度第２回事務長部会研修会について
3．賛助会員応募状況について

山口県病院協会事務長部会・各支部会議報告

開催支部と議題及び研修会のテーマは次のとおり
【下関支部】
開催日　９月26日（金）
場　所　下関看護リハビリテーション学校　会議室
議　題　1．下関医師会病院病棟閉鎖について
2．下関二次医療圏の人口推計について
3．各職種初任給について
4．保健所立入検査について
5．その他

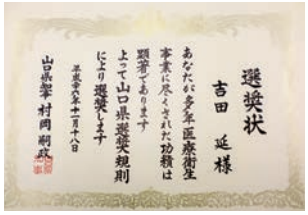
下関支部

【長門・萩支部】
開催日　10月31日（金）
場　所　都志見病院 会議室
講　演　テーマ「医療・介護一体改革について」
講　師　萩市民病院　事務部長　中田　祐広　氏
議　題　1．当協会からの連絡事項
2．情報交換他

長門・萩支部

お知らせコーナー

平成26年山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）


選奨状
吉田　延様
あなたが多年医療衛生事業に尽くされた功績は顕著であります
よって山口県選奨規則により選奨します
平成26年11月18日
山口県知事　村岡嗣政

山口県病院協会　理事
医療法人社団愛命会　大田病院
　理事長　吉田　延　先生

　教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月18日県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において山口県病院協会理事の吉田先生が受賞されました。

　吉田先生は、昭和42年から今日まで47年余りの長きにわたり、医師として地域医療の振興に尽力されてきました。殊に昭和52年に徳山精神病院に勤務後は、精神病院の地域への溶け込みを図るなど、地域精神科医療の発展に貢献されて来られました。

　平成15年に当病院協会常任理事に就任後は、精神科病院団体に止まらず、広く病院団体の運営にも参画、病院協会活動の充実・発展に努めるなど、保健衛生の向上に寄与した功績が顕著であることより今年度の県選奨受賞となりました。

　心よりお祝い申し上げます。

山口県庁にて天津事務局長（左）と共に

山口県医療労務管理相談コーナーのお知らせ

　山口県社会保険労務士会では、山口労働局の委託を受けて、医療従事者の勤務環境改善に向けた医療機関の自主的な取組みを支援することを目的とした「山口県医療労務管理相談コーナー」を設置して、労務管理全般に関する相談や、労働基準関係法令に関する照会の受付、並びに「医療勤務環境改善マネジメントシステム」の導入についての支援を無料で行っています。

医療勤務環境改善マネジメントシステムとは

　勤務環境の現状を把握し、抽出した課題に対する改善を行うことにより、労働時間管理をはじめとする適切な労務管理や健康支援、働きやすい環境整備、働きがいの向上を目指した幅広い取組みです。

山口県医療労務管理相談コーナー

　山口市中央４丁目５番16号　山口県商工会館２階（山口県社会保険労務士会内）
　TEL　083-923-1720（代表）　083-928-5888（直通）　FAX　083-923-9802

会員等の異動

法人変更　　医療法人社団　宇部興産中央病院　　（変更前　宇部興産株式会社中央病院）

病院協会の主な行事予定

○１月10日	医療関係団体新年互礼会	（会場：ホテルニュータナカ）
○１月16日	第５回理事会	（会場：新山口ターミナルホテル）
○１月22日	病院医療事務担当職員研修会	（会場：山口県セミナーパーク　講堂）
○１月23日	四県病院協会連絡協議会	（会場：ホテル日航福岡）
○１月27日	県医師会・県病院協会懇談会	（会場：割烹　ふく田）
○２月19日	事務長部会研修会	（会場：新山口ターミナルホテル）
○２月24日	金融懇談会	
○３月17日	冬季医療経営講習会	（会場：山口グランドホテル）

編集後記

　あけましておめでとうございます。会員のみなさまには、光り輝く新年をお迎えのこととお慶び申し上げます◆さて昨年末は、突然の衆議院解散・総選挙で驚かされました。焦点は一昨年末に放たれた「アベノミクスの三本の矢」の評価ということでしょうが、矢はうまく的を射ることが出来たのでしょうか？予想された低投票率の中で、衆議院定数の３分の２以上の議席を獲得した与党は本当に恩恵をもたらしてくれるのでしょうか？◆一方､県政を率いる村岡知事からは「活力みなぎる山口県」を実現するために「元気創出！どこでもトーク」を通じて「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」の策定を進めているという力強い抱負を語っていただきました。是非頑張っていただきたいものです◆役員コーナーならびにスタッフコーナーのお話からは､『地域医療』というキーワードが浮かび上がります。高齢化社会で重要な存在となる地域包括ケアシステムの中で、自病院の立ち位置を見極めて、頼りにされる医療機関となれるように今年一年頑張っていきましょう◆山口県病院協会は、本年も会員の皆様に役立つ情報を提供してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。　（水田　英司）